



月刊 発行  
薬事日報社

東京本社 〒101-8648  
東京都千代田区神田和泉町1  
☎ (03) 3862-2141  
FAX (03) 5821-8757  
大阪支社 〒541-0045  
大阪市中央区道修町2-1-10  
☎ (06) 6203-4191  
FAX (06) 6233-3681  
購読料 半年19,764円  
(税込) 1年36,234円

きょうの紙面

東京ワケチム発足  
都薬など4団体…②  
天藤製薬を子会社化  
□-ト製薬……⑥  
アデコ双アが米承認  
バイオジェン・I-ザイ…⑦  
特集 ④～⑤  
〈日本薬局協会〉

本号8ページ

# 持参薬切替時の負担軽減

## フォーミュラリー活用で

### 戸田中央リハ病院薬剤科

フォーミュラリーに基づく薬剤師の持参薬切替提案は医師の負担軽減やエラー防止につながるが、戸田中央リハビリテーション病院薬剤科の調査で明らかになった。同院の常勤医師にアンケート調査を実施したところ、患者の入院時にフォーミュラリー等に基づいて薬剤師が持参薬の代替薬を提案した場合には、医師の処方切替に要する時間は1薬剤当たり1分で、提案が全くなかった場合の2分に比べて大幅に短くなった。安全性の確保についても、医師から高い評価が得られた。

同院は、埼玉県戸田市にある200床の回復期リハビリテーション病院。エビデンスに基づき、有効性や安全性、経済性を考慮して推奨同効薬をリストアップしたフォーミュラリーを導入を進める戸田中央医療科

グループの病院として、これまで18品目21薬剤の推奨薬を盛り込んだフォーミュラリーを作成。薬剤師が持参薬鑑別と代替薬提案を実施した。このうち半分弱がフォー

ミュラリーに該当する持参薬で、薬剤師はフォーミュラリーの内容に基づいて提案を行った。提案のうち2割では、入院後の状況を踏まえ、医師と薬剤師らが話し合っ持参薬の中止や持参薬と同じ銘柄での継続を決めたが、提案の8割ではフォーミュラリー通りに切り替わった。常勤医師9人を対象にアンケート調査を実施した結果、持参薬の処方切替に要

する時間は、フォーミュラリー等を活用した薬剤師の時間削減にとどまらず、代替薬提案がある場合には1薬剤当たり1分で、薬剤師からの代替薬提案が全くない場合の2分に比べて半分の時間で済んでいた。推計すると、医師1人当たり年間7時間の時間削減につながった。  
フォーミュラリーは医師の同意を得て策定している。フォーミュラリーに基づく薬剤師の提案は、単なる時間削減にとどまらず、医師の処方切替時の思考負担を軽くし、ストレス軽減にも役立ったと考えられている。  
薬剤師にとっても、フォーミュラリーに基づく代替薬の標準化によって、薬剤師間の提案のばらつきが抑えられ、迅速で正確な提案が実現した。  
医師に対して「薬剤師の代替薬提案がインシデント防止につながると思うか」と聞いたところ、10ポイント中9・5ポイントという高い評価が得られた。  
同院薬剤科は「患者数増などで医師の負担が増える中、薬剤師によるフォーミュラリーに基づく代替薬の提案は、医師の処方負担を減らし、安全な医療の提供につながる可能性が考えられた」としている。